

勉強会20230618アンケート

第一回目勉強会の感想

- ▶技術者倫理は、深い話でした。
- ▶技術士ライフステージ議論は、これから先のライフステージを目指していく上でも、大変ありがたいものです。様々な意見を聞くことができ、自分の技術士感性のブラッシュアップにも有効と感じました。
- ▶忙しかったです。チャット担当でしたが、迅速に記載できませんでした。すみません。
- ▶これから意見交換の場が多そうで興味深いです。多様な観点を材料に、自らを研鑽できればと良いと思いました。
- ▶出席できませんでした
- ▶皆様が同じようにご苦労されているという認識ができた。ファーストステップとして、とてもよかった。
- ▶期待どおりの盛会でした。田中様のお話を聞けるだけでも価値がありますし、さらに、参加の皆様ともお話できるのは非常に貴重です。休憩中の雑談も聞いて、とても皆様が身近に感じれて良かったです。
- ▶技術士倫理の教え方の導入が参考になった。
- ▶義父母が来阪・来宅することをすっかり忘れており、急遽欠席しましたこと、お詫びします。
- ▶残念ながら参加できませんでした。
- ▶個々に対しての質問が、回答が難しいのと、倫理観には多様性もあり、議論が難しい点があるなと考えました
- ▶ブレークアウトでの討議をもう少し増やしても良いと思いました（時間的に厳しいですが）
- ▶思っていた以上に良かったです。私は企業内ではありませんが、独立技術士として業務する上でも倫理から技術者倫理へステップする上での基礎的な考え方の一つを学びました。
- ▶企業内儀技術士の方々の勉強会に対する期待をもっと聞きたかった。何を期待しているのかに対し、私ができることを思索しながら、さらに対話を通しながら、経験知を積み重ねばなあと考えている。
- ▶目的が自分の期待したことと異なる
- ▶途中退場のため
- ▶WEBでは難しいが、もっと各人の意見交換ができるような形がおもしろいですね。
- ▶プレゼン者の意味が理解できなかった。話し合った内容をプレゼン人とは思わなかった。話し合い時に期待することとか貢献できそうなことをプレゼンするのかと思っていた。また、zoom中に、記録をPC内のメモに記載すればよいような話がありましたが、そ

の方法を知りません。ステータスバー内に隠してしまってメモしそれをどのように送付すればよいかもわかりません。その辺のスキルUPが必要です。ファシリテーションの練習にもなります。緊張しながらなんとか参加できたような感じです。

▶田中さんは、今回に限らず、いつも自分をさらけ出して受講生の心に訴える話し方をし、経験に基づいた具体的な話もしていただいて、改めて感心しました。今回も大変な労力を要する勉強会を立ち上げたことに敬意を表します。

LS別苦勞話

LS2

▶模索中です

▶①現在行っている開業準備活動が、効果的なのか、ちゃんと開業できるかが見通せない ②企業（三菱ふそう）在籍中の品質問題当時に悩んだこと：組織の一員としての立場と社会の公益に資する立場とのジレンマ

▶職場での技術士として認知度を上げること。知る人ぞ知る存在になっている。

▶1. 自らの資質向上について。自分が今後どうなりたいか目標をはっきりさせ、どのように必要な資質を向上していくか、悩んでいる。2. セクショナリズムをどのように打破するか。会社全体で様々な取り組みを行ってきたといわれているが、最近では、仕事の選択と集中を理由に悪化していると感じており、苦しんでいる。

▶技術士にはなったものの技術の仕事から離れているため、どのような形で技術の仕事に戻るのが良いのか（例えば、独立）というのが目下の悩みです。

LS3

▶思いのほか「技術者倫理」という言葉を知らないエンジニアが多いのと、「言葉は知っている」という方でも、実務でのトレードオフに直面した場合の対応経験のない（あるいは、気づいていない）方が多い。

LS4

▶ちょうど60歳で4月1日から専門嘱託として、引き続き、会社に勤務しています。悩み事は、あまりにも今の業務に掛かり切りとなっていて、退職後がイメージできないことです。

▶自分自身の自己研鑽で活動しているが、企業内向けには話題提供・情報展開程度である。会社内に技術士は多数存在するがつながりが全くない。メール展開しても反応もない。

▶勤務先での技術士の地位が無いに等しい（博士至上主義）ため、少なからず認めてもらえる外部（技術士会、地域、学協会）での活動に逃避せざるを得ないところがあります。

▶当社では技術士の理解がなく、専門家として活動できない。（部署・肩書の方が有効）

▶技術士活動に会社の理解がない、多数の幹事とCPD等で家族との時間が減っている、今後の人生プランについてなど

LS5

▶定年退職前までに後輩達に何をどのように教えていけば良いか？自分自身、次ステージに向けて何を学んでいけば良いか？について悩んでいます。

LS6

▶なかなか固定客（技術顧問）が見つからない。過去の経験を使って営業中です。

▶2019年3月末に早期退職、翌年2020年5月に技術士事務所を設立するもののCOVID-19パンデミックで営業活動も自粛。未だ開店休業状態。今年中には営業活動を本格化したい。さてさてどうしたものか。

▶業務獲得の営業方法、手段

▶クライアントを如何に見つけるか

LS7

▶コンサル活動において同様の案件を依頼されることがある。最初のメーカーの上に次のメーカーを持ってくることはできないのでどうすべきか？

▶会社と顧問契約して週3日以上出勤なので、他の仕事を受ける余裕があまりない。

▶現在は技術士としての業務は何もしていない。年齢相応で仕方ないと思うがこのままで良いか自問自答している。

LS8

LS1(これから技術士を受験する) 人に必要なスキル

1 何のために技術士になりたいのでしょうか (目的)

- ・活躍したい。名刺に記載できる。
- ・国から認められた技術者としての証明、クライアント・社会からの信頼獲得、自分の得意技術を活かして生涯社会貢献
- ・自分の知識を活用するための公的名称がほしい。かつては学位であったが、現在は学位と技術士は同格の扱いの様に感じる。
- ・エンジニア最高峰といわれる資格への、あこがれをかなえる。資格名称を活かし、希望部署に異動して、業績をあげる。人の役に立ちたいという自分の欲を満たす。
- ・お墨付きを得た技術者として社会に貢献する
- ・自らの発信に対し、顧客の信頼を向上させる事。
- ・自己のエキスパティ、身に着けたスキルを証明するため。
- ・仕事に生かせる技術系資格を取得する。学生時代に勉強した内容を再勉強する。顧客対応のため、金属に関する広く全般的な知識を習得する。
- ・将来の収入のため。培った科学技術の社会への還元する上で、そのポテンシャルの高さを示す「客観的なお墨付き」を得るため。
- ・技術の専門家として、まずは社内で役に立ちたい。
- ・個人の能力を高めるため、会社に技術者として認めてもらい対等に話を聞いてもらうため (自分はいまうまくいかなかったが)

- ・技術士になりたい（技術士の〇〇さんのようになりたい）
- ・専門職で国家資格を取得し、それを生かして社会貢献する人になりたい。
- ・技術士会のコミュニティに所属し、信頼できる仲間と共に専門分野を学び続けたい（ある意味、社会との接点をもつこと）
- ・自分の成長と社会貢献、自律と自立の確保、売上向上による収益安定化
- ・専門とする部門の幅広い知識を身につけ幅広い分野でコンサルが出来るように
- ・エンジニアとしての能力レベルの客観的評価を示すため
- ・自分の実力を知りたい。
- ・技術士の資格をもてたら、組織に縛られない、自由な立場で発言できる。

2 現在はどんな状況ですか（現状）

- ・過去問を見ると、知識が無いことに気付いた。
- ・受験準備段階
- ・認知度が低い
- ・技術士に求められるコンピテンシーを理解していない。技術士一次試験で問われる基礎知識を忘れている。二次試験の論文対策で、何から始めたらよいかわからない。
- ・技術者として社会に貢献したいが、技術の仕事から離れている
- ・学会協会でのプレゼンスは多少あるものの、裏打ちがない。個人としての責任感を顕在化させるべきと思っている。
- ・会社に勤務していると、そこでの目標（製品開発での効率化、コストダウンなど）をクリアすることに没頭せざるを得ない。技術者として何が出来る人なのか、第三者的に見られたときに明確にならない。できれば、自己のスキルを明確にしたい。それによって他者からの的確に評価されたい。
- ・社命で公害防止管理者資格を取得した。試験科目が一部免除となる技術士受験を選定した。
- ・技術士にはなったが、思い描いていた理想とはかなり異なっている。兼業も制約大。確定申告が不要な年間20万円の小規模な活動（→兼業許可が不要）にとどまらざるを得ない。
- ・技術士取得より部署や肩書のほうが重視されるため、部署が違えばただの人
- ・自分の専門分野以外の学習が困難な点、時間が確保できない、仕事で勉強ができない
- ・実務的な経験は積んで来ているが、金属学的な知識は忘れていたものがあり、最新の金属技術も偏った分野しか知らない
- ・忙しくて中々勉強に集中できない。
- ・専門技術知の学びができない環境に置かれている（技術者不在の環境）
- ・自分の能力を若干だが、社会のために活動ができています。
- ・自分の専門知識のとどまり、部門全体の知識が狭い
- ・最近世の中の進化に対して勉強不足を痛感する。
- ・社内では技術者仲間では一定の評価を得ている。それが世間で通用するのか。
- ・企業は、常に自社の立場や利益を守ることが最優先。

3 いつまでに、何を達成したいのでしょうか（目標）

- ・1年目で1次試験合格。1次試験の自己採点后、合格を確信したら2次試験の勉強を開始する。
- ・決意後1～2年以内に1次試験合格、その後3年以内に2次試験合格。遅くとも退職前2年前までには技術士資格取得（最後の2年間は、独立開業に向けての準備）
- ・2年で2次試験に合格し、技術士となる。
- ・直近の技術士一次試験に合格する。その翌年の二次試験に合格して、技術士になる。
- ・今年中に今後の方向性を決める
- ・4年間で1次試験、総監、金属以外のもう一つの部門の計3部門を取得。企業技術士としていままでの業務経験を、「技術士」という形にする。
- ・業務経歴として書けるような目標を立案できるようになれば、技術士にチャレンジすべき。何かのプロジェクトを担った場合であれば3年間くらいのスパンと考えるので3年後、プロジェクトの目標を達成することが、いつまでに、何をやり遂げるかになる。
- ・二年以内。
- ・定年まで（早ければ60歳くらいまで）に、独立して食べて行けるほどの感触を得ておきたい。
- ・「すでに行っているが」「企業内技術士会の設立と情報共有・周囲への認知向上」
- ・今年中に1次試験突破し、来年2次試験を受ける
- ・2年で技術士になる
- ・来年度に受験し、必ず合格できるように、本年6月から準備します。
- ・最短の期間で、1次試験、二次試験に合格すること。受験挑戦のチャンスは3回まで。3回不合格ならその資格に不適正と考え、受験を断念する。
- ・今年中にもものづくりコーディネーターの役を勝ち取る。
- ・関連する展示会やセミナーに参加し技術動向、最新知識を身に着ける。yes! metalに毎回出席
- ・再度、脳の活性化を図りたい。
- ・定年前までに、技術士2次試験に合格する。
- ・年内に技術士の受験勉強に取り掛かる。

4 目的を達成するためには現状に何が足りないのでしょうか（ギャップ・課題）

- ・知識の幅が狭い。
- ・多忙業務の状況下で、どのように勉強時間を確保するか
- ・知識はあるが、所定フォーム・容量に理解しやすくまとめる能力が足りない。
- ・技術士試験で要求される能力、およびそれをアウトプットする能力が足りない。
- ・技術に関わる仕事がしたい思いが強いものの、技術の仕事から離れている
- ・専門分野以外の金属関連技術において、知識や市場・技術の課題に対する理解が不十分。

- ・技術士に求められる資質能力は、企業内の業務だけでは十分に身に着けられないところがある。求められる専門知識は広い。
- ・金属に関する広く全般的な知識を短期間で習得し、一次試験二次試験面接に対応できるよう準備する。
- ・勤務先に「技術士」や「技術士資格に基づく兼業」を認める環境が全く無いこと。
- ・コロナ禍によりTeams活動しかできない。（逆に地区を超えた広がりを持てた。）
- ・本当にその資格が必要なのか腹落ちして取り組んでいるか怪しい点があり学習に集中できない
- ・知識の不足（1次の過去問やっても6割ギリギリ）、最新の技術の多くを知らない、出題傾向を知らない
- ・会社の仕事が忙しく、また、私の仕事はほとんど私一人で行っていますので、後継者を見つけられない。
- ・身近に技術士がいなく、技術士の受験制度や受験対策の情報がまったく入手できない。
- ・県内中小企業への活動貢献実績が少ない。
- ・多忙を理由に、セミナーや展示会など受け身の情報収集でさえ参加していない
- ・気力、体力、知力の衰え
- ・業務の棚卸ができていない。失敗談、成功談体験のまとめ。技術士試験の具体的内容に対し実感がなかった。
- ・地方に住んでいるので受験対策の機会が少ない。

6 ギャップを埋めるために何をしますか（対策）

- ・試験問題で問われる技術について、理解する。
- ・効率的な試験勉強法の実施。社内先輩技術士からのサポート、受験セミナー活用による試験対策指導
- ・過去問題の解答を繰り返す。
- ・合格へ向けた計画を作る。時間を確保して勉強を継続する。健康に気を付ける。
- ・社内異動については以前から希望を出しているが実現しないので、独立を検討中
- ・知識の取得と日常業務での実践。技術的理解の薄い関連分野の方々との積極交流による情報交換。
- ・ギャップを埋める自己研鑽が必要となる。そのためのセミナーを受講したり、先輩技術士の指導を受けるなど。
- ・「図解入門よくわかる最新金属の基本と仕組み」を熟読し、金属に関する広く全般的な知識を短期間で再勉強して習得する。
- ・社内規定（あるいは法律？）を作り変える必要があり、ヒラには手の付けようがない。何もできない。
- ・社内での知名度の向上＝活動を継続し続ける
- ・資格活用のイメージを高める。何のためにその資格が必要なのかよく考える
- ・学生時代の教科書の学び直し、インターネット等で最新技術の調査、過去問収集、金属技術士のホームページを見る
- ・有休休暇などを上手く使い、確実に合格するための勉強を行う。古い例を出しますが、武田信玄のように負ける戦は行わない。

- ・ウェブサイトで有用な情報収集。受験環境の整備と合格までのロードマップ（計画書）づくり。それに基づく、学びの実践。
- ・県内中小企業への活動貢献実績を積む
- ・休日のセミナーや展示会に参加する
- ・各種試験にチャレンジすることで、リズムを作る。
- ・通信教育を受講して指導を仰いだ。田中さんのブログや、雑誌「金属」の技術士の内容から試験範囲やすべきことを学んだ。
- ・資格は金で買うもの、と考え、東京へ出向いて受験対策の講習を受ける。

7 まず最初に何から手をつけますか（最初の一步）

（これは皆さんから会場でお聞きします）

8 これって誰がやるのでしょうか？（行動の主）

- ・自分。
- ・自分自身
- ・自分自身
- ・私
- ・自分自身
- ・自分自身が主体だが、積極的に先輩・後輩・顧客に助言を頂く。

金・属部門であれば Yes Metals の活動は、ギャップを埋めるのに有効。その他、企業内技術士会での取組（技術士受験講座など）に積極的に参加すること。誰がやる＝誰が・指導するかという点は、先輩技術士の担うべきところと考える。

- ・自分
- ・規定見直しなら幹部？、法令改正なら議員？
- ・すでに自身で実施中
- ・自分
- ・自分自身がやる
- ・もちろん、自分です。
- ・私です
- ・自分
- ・自分自信で
- ・自身
- ・自分です。
- ・自分。